



電動工具の卸で中・四国エリア屈指の存在 体験型店舗には「サウナ」のショールームも

代表取締役 ^{ふじわら} 藤原 ^{あつし} 篤史 氏

高度経済成長期の波に乗り事業を拡大

創業者の藤原久次は私の曾祖父にあたる人物です。戦後まもなく、現在の広島市東区愛宕町の自宅前に家庭用の刃物やノミ、カンナなどの大工道具を並べて「藤原刃物店」という屋号で商売を始めたのが当社の出発点です。

1958（昭和33）年には国産初の電気カンナをきっかけとして電動工具の販売をスタート。この時期は高度経済成長期の真っただ中。多くのインフラが整備される中で、当社も着々と事業を拡大できたようです。

やがて建築・建設工具と農林・造園工具の卸が事業の主軸に。1973（昭和48）年には社名を現在のものに改め、1990（平成2）年には本社を商工センターに移し、旧本社は「愛宕支店」となります。

私は2019（令和元）年に4代目を継承しました。多感な時期には家業にあまりポジティブな印象を抱いておらず、正直「少しむさ苦しい」とまで思っていました。関西の芸術系の大学に進学しましたが、在学中「跡を継ごう」と決意。卒業後に電動工具メーカーで3年間、工具の商社で1年間、多くのことを教わりました。この期間には、家業が置かれた現状を客観視した上で「どうすれば自分がやりたいことを実現できるか」についても整理することができました。

新しいことを始める前に、まずは「結果」を出さなければと、当社に入社後は営業に注力し、売上拡大を目指しました。当時エンジン機器から環境に配慮した「充電式」への切り替えの時期であった幸運もありましたが、周りを巻き込みながら数字を重ね、新規開拓にも注力。電動工具卸の業界で長年、中・四国エリアでトップクラスのポジションを守り続けることができています。

「体験型」のプロツールショップをオープン

私たちが提供する商品は、単なる道具ではなくお客様一人ひとりの想いを形にし、より良い仕事・生活を実現するための「パートナー」。高品質で信頼のおける商品と、きめ細やかなサービスを通じて「手にした瞬間に感動を覚える」体験をお届けすることが私たちの喜びであり、使命だと考えています。

昨年、本社社屋と倉庫を全面改装してオープンさせた体験型店舗「FUJIBACO | 藤箱」は、この使命を実現するために温めてきた計画の一つです。電動工具はもちろん、薪割り機などの林業用品・園芸工具・打刃物・サウナ・薪ストーブなどの幅広いアイテムをラインナップ。広島初のブランドやレアな商品も取り揃えており、専門知識豊富なスタッフによるアドバイスや提案・修理、アフターサービスに至るまでの手厚いサポート体制を整えています。「ワクワクしながら道具が選べるように」と空間デザインにもこだわりました。当社の原点となった「刃物」のコーナーも設け、日本が誇る伝統文化である「打刃物」を1本ずつ丁寧に展示しています。

「藤箱」の企画と並走するような形で本格始動した新事業が「サウナの販売・設計施工」です。もともと私自身のライフスタイルにも「サウナ」は欠かせない存在でした。「健康志向の高まりから『ウェルネス市場』は世界的に伸びており、既存のお客様とも親和性のある事業ではないか」。リサーチや検討、サウナ発祥の地フィンランドの現地調査を重ねた上で、フィンランド発の世界的なサウナ&スパブランド「ハルビア」と代理店契約を締結し「藤箱」内にもサウナを体験できるショールームを設置。想定以上の反響が寄せられており、これまでに一棟貸しの別荘やホテル、温浴・宿泊施設や個人宅などにサウナを施工させていただきました。

80周年のその先も「信頼」という社是を胸に、お客様にサービスを提供していく構えです。同時に「生まれ育った『広島』に貢献したい」という強い思いも抱いています。広島には海も山も川もあり、冬にはウインタースポーツも楽しめて、瀬戸内海の多島美の風景も素晴らしい。周りの人々と協力しながら色々なコンテンツ・商品・サービスをつくりたい。そしてそういった情報を発信し、関わる人々を笑顔にしながら、より素敵な広島にしていけたらとイメージを膨らませています。



「藤箱」内 サウナ体験可能なショールーム



弊社外観



弊社内観



DATA

■社名	株式会社藤原商会
■所在地	広島市西区商工センター 4-7-21
■創業	1946（昭和21）年3月21日
■事業内容	電動・エア工具・小型エンジン機器の卸・小売、建築建設工具・資材の卸・小売、サウナ・ストーブの販売・設計施工
■資本金	1,200万円
■従業員数	18人